JIS改正案作成に参加

再生骨材の役割周知へ

CO_2固定化の評価定める

ACRAC　柴谷　啓一　会長

再生骨材コンクリート普及連絡協議会（ACRAC、活動会員21社、賛助会員7社）は、再生骨材コンクリート（再生コン）や再生骨材の製造会社などで組織され、今年11月に15周年を迎える。再生骨材の品質を担保するために独自の品質管理監査制度を運用するほか、規格類整備への協力、再生骨材などに関する統計調査などの活動を行っている。柴谷啓一会長に、昨年改正されたJISのポイントや普及への課題を聞いた（次号28日付で主要会員社の事業概要を紹介）。

――JIS改正のポイントは。

柴谷会長　JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）と同じく、2024年の3月21日付で、A5021（コンクリート用再生骨材H）、A5022（再生骨材コンクリートM）、A5023（再生骨材コンクリートL）が改正された。当協議会も改正原案作成委員会には参加している。

A5023は、絶乾密度および吸水率試験において、「微粒分試験後の試料を用いて良い」とする規定の削除が行われた。旧規格では、微粒分を多く含む再生細骨材L（L級）では、表面乾燥飽和状態の判定は難しいとされ、洗った後のL級を試料としても良いとしていた。しかしL級を製造する当協議会の会員社3工場で表面乾燥飽和状態の判定状況を調査したところ、洗った後の試料の方が吸水率は小さいことが分かった。L級に含まれる微粒分には、原コンクリートの破砕処理時に発生したセメント微粉が多く含まれており、これを除去した試料で試験を行うことは、吸水率の試験結果が小さくなり、品質の区分が変わる可能性があるなど、危険側の判定になることが考えられていたためだ。

またA5021においては、再生粗骨材Hの粒形判定実積率について記述を改め、使いやすくなっている。

当協議会が要望を出したものの中には、今回は改正には至らず、継続審議のものもある。引き続き必要なものは要望していきたい。

他団体と協力し普及推進

新たな流れで良い方向に

――再生コン普及への課題は。

柴谷会長　会員社の再生コン年間出荷量は、合計で4～5万㎥ほど。生コン（バージン）出荷量に対し、使用の割合は変わっていないが、生コン打設量の減少に伴い、現在は漸減傾向にある。これを打破するために、再生コンの使用の割合を増やしていく必要がある。当協議会としては、多方面に働きかけ、普及を図っている。

一つは、再生骨材を製造する側と、利用者側の適切なマッチングが必要だと考えている。行政にも積極的に動いていただき、両者がお互いの情報不足を解消していく必要があるだろう。

また安価であることだけを、再生骨材の利点としてはいけない。当協議会では、カーボンニュートラル（CN）における再生骨材の役割を周知させていくことが、今後の普及に必要なことだと考えている。そのためには、再生骨材や再生砕石がどれくらいのCO_2を固定化できるかの評価を定めることが重要だ。データを集め、当協議会としてその計算方法を確立させることを、24年度の課題としている。25年度の総会で計算方法を発表し、承認ののちに、その方法を以後普及していきたい。再生骨材を用いることによって、建築主が「環境に配慮している」と評価され株価に反映されるような社会が理想だ。

一方で、ブルーカーボンを切り口に中間処理会社に再生骨材製造を促す活動も継続して行っていく。L級再生骨材を活用した藻場の研究を進めていきたい。人工漁礁を作っている企業も、工場近隣に再生骨材を製造する工場があれば、利用したいと話している。藻場や漁礁を作る工場の近隣で再生路盤材を作っている工場が、コンクリート用の骨材を作ってくれるようになれば再生骨材の普及は進むだろう。兵庫では、会員社の近畿道路資材が中心となって、再生路盤材工場が再生骨材に目を向けてくれるように働きかけを行っている。

また国土交通省はM級再生骨材について、建築基準法における主要構造物の指定材料に適用する検討をはじめている。大臣認定を取得しなくても、建築物にM級が使えるようになると期待している。

――粒状化再生骨材など新たな再生骨材もある。

柴谷会長　生コン・残コンソリューション技術研究会（RRCS）には、私も理事として関わっており、再生骨材の新しい流れが、良い方向にできつつあると考えている。他団体とも協力し、再生コンを普及させていきたい。

1工場に㊟マーク付与

第13回再生骨材コン委

再生骨材コンクリート普及連絡協議会（ACRAC、柴谷啓一会長）は3日、第13回再生骨材コンクリート委員会（委員長・池田尚治横浜国立大学名誉教授）をオンラインで開催した。

品質の確保により社会的に信頼性を高め、安定した品質のコンクリート用再生骨材の供給を目的に25年度品質監査を実施。審議の結果、新規1工場を品質監査適合工場と認定し㊟マーク（有効期間3年）を付与することを決めた。

ACRAC品質監査制度実施した。

また25年度中間監査（抜取検査）は、絶乾密度、吸水率、微粒分量の基準値を満たした4事業者が合格となっている。

委員からは、担当者の体調不良で予定していた対象の継続1工場で監査が実施できなかったことに対し、「企業としての事業継続性を考えると、社内に監査を受けられる体制を整えてほしい。技術者一人だけに頼らず、企業として活動できるような組織体制作りを進めてもらいたい」との意見があった。

閉会のあいさつに立った柴谷会長は「ACRACは会員が次第に増え、最近は長崎や岡山の企業が加入しL級再生骨材を扱っている。L級がまず全国に普及できれば、M級も続いて普及できるだろう。どうにかして普及の端を発したいと考えている。皆さんのご協力をお願いしたい」と話した。

業界初心者
必携の一冊

生コンの初歩的な知識から
コンクリート技術の最新動向まで
分かりやすく丁寧に解説！

知っておきたい
生コンクリートの
基礎知識

生コンJIS
2024対応版

図版とイラストで
見やすく解説！

本書の構成
第1部　基礎知識編
・生コンとは？
・コンクリートをつくる材料
・生コンの環境負荷低減　ほか
第2部　工場編
・生コン工場
・受注・契約時の留意点
・苦情処理　ほか

発　行：2025年3月17日
判　型：A5判
定　価：本体3,000円+税
送料別：一律440円

株式会社セメント新聞社
TEL.03-3535-0621
ご購入はセメント新聞社ホームページから
URL https://www.cement.co.jp